

令和元年度第1回地域連絡調整会議のお知らせ ～就労を目指す高齢者等への支援について～

今年も地域連絡調整会議を市内5ヵ所で開催します。

今回は、「就労を目指す高齢者等への支援」をテーマとし、さーくるにおける就労支援の状況をご報告するとともに、ハローワーク船橋の就労支援ナビゲーターの城谷氏をお招きし、就労支援についてお話しいただきます。

どなたでもご参加いただけます。全5回とも同内容となりますので、ご都合の良い回にお申し込み下さい。

内 容

- ①「さーくるの事業説明および就労支援の現状」
- ②「ハローワーク船橋における高齢者等への就労支援」

講 師：ハローワーク船橋 就労支援ナビゲーター しろたに なおたか 城谷直孝氏

会場及び日時

9月18日（水）14:00～15:30	南部ブロック	市民文化ホール リハーサル室 (中央公民館2階)
10月9日（水）14:00～15:30	東部ブロック	東部公民館 講堂
10月23日（水）14:00～15:30	西部ブロック	葛飾公民館 講堂
11月13日（水）14:00～15:30	北部ブロック	八木が谷公民館 講堂
11月27日（水）14:00～15:30	中部ブロック	新高根公民館 講堂

申込先：さーくる

TEL：047-495-7111 FAX：047-435-7100

E-Mail：circle@kazenomura.jp

※参加希望のブロック名、所属、名前、連絡先をご連絡下さい

担当：島田・岩永

職員紹介

令和元年7月1日より船橋市『保健と福祉の総合相談窓口』さーくるで勤務させて
いただいています、平田亮ひらたりのうです。現在まで、高齢者デイサービスや病院での相談員業
務に携っていました。

まだまだ分からないことだらけですが、少しでも皆様のお役に立てるように頑張っ
ていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【発行・編集】

船橋市『保健と福祉の総合相談窓口』さーくる
(船橋市委託事業 社会福祉法人 生活クラブ)
所在地 船橋市湊町2-8-11 船橋市役所別館1階
TEL 047-495-7111
FAX 047-435-7100
HP http://www.kazenomura.jp
E-Mail circle@kazenomura.jp

編集後記



8月は夏本番！海にお祭りに、たくさんお
出かけできましたか？青い空と白い雲が印象
的な8月。8月の誕生月の花はひまわり(向日葵)。
ひまわりは、元気！ポジティブ！
元気で明るいイメージの夏の花の代表花、
ひまわりは太陽に向かい花を咲かせます。ひ
まわりのように、私達も太陽に向かって大き
く伸びていきたいと思えます！

令和元年度
夏号

広報さーくる

内 容

- ・これからの就労準備支援事業
- ・家計表がリニューアル！
- ・研修報告
- ・地域連絡調整会議のお知らせ
- ・職員紹介
- ・編集後記

これからの就労準備支援事業について

～一人ひとりがその人らしく生きていける地域づくりに向けて～

さーくるで就労準備支援事業が開始されてから4年が経ちました。

就労準備支援事業とは「社会とのかかわりに不安がある」「他人とのコミュニケー
ーションがうまくとれない」など、すぐに一般就労を目指すことが困難な方に、日
常生活の自立から就労まで計画的に仕事に向けての準備を支援する事業です。

今回は、さーくるで就労準備支援事業を担当しているたつみ いわなが巽、岩永と、当事業のうち、
ボランティアコーディネートをしている船橋市社会福祉協議会のおおたに みか大谷美香さんとの
3名で「これからの就労準備支援事業」をテーマに話し合ってみました。



左から、大谷氏、巽、岩永

岩永（司会）：就労準備支援事業ではどのような
方が、利用していますか。

巽：現在利用されているのは20代から40代の
13名ほどです。仕事をしておらず、社会
との繋がりが途絶え、孤立してしまった
方やコミュニケーションが苦手な方、人
間関係が築きづらい方がいます。中には、
就労準備支援事業へ参加している間に
自身の特性に気づき医療機関を受診して
障害者手帳を取得する方もいます。

岩永：就労準備支援事業としてのボランティア
への参加はどのような位置づけになっ
ていますか。

巽：ボランティアは、コミュニケーションが苦手な方やひきこもりの方、長く仕事についていなか
った方の社会参加の入り口であり、ハードルの低い就労体験の場であると考えています。

岩永：大谷さん、ボランティアの種類はたくさんあるようですが、どのような内容がありますか。

大谷：古切手の整理作業、貸し出し用の車いすの清掃、地区社協のイベントの会場設営や片付け、福祉
まつりなどで使う小物を作る製作活動、事務所の中で事務作業の手伝いなどがあります。

岩永：ボランティア受け入れ先の開拓はどのようにして行っているのですか。

大谷：各地区社協に協力を呼びかけています。事業の説明が必要な場合には、各地区社協の理事会等で事
業の説明をしています。各地区社協の職員とも話をしてアイディアをもらっています。

岩永：ボランティアを希望する人がいる中で具体的な検討をするということなのですね。

ボランティアと人をコーディネートしていく上で工夫されていることはありますか。

大谷：ご本人が興味を持てるような内容に繋がりたいですね。オーダーメイドに近いので、本人の話の中か
らヒントを見出してから繋げていくことを心掛けています。誰かの役に立っていることを感じて頂
きたいので、必ず「ありがとう」という言葉を大事にしています。



船橋市社会福祉協議会
大谷美香さん

岩永：ボランティアに参加している方たちの様子や変化について教えてください。

大谷：最初は、緊張して戸惑ってぎこちなかったのが、ボランティアの回を重ねるごとに手順を覚えてきて、雰囲気や表情も明るくなって変わっていくのを実感しています。

岩永：本人自体も変わっていき、まわりの方たちの働きかけでさらに変わっていくのですね。巽さんから見て、ボランティアに参加することの効果はどのようなものでしょうか。

巽：人に受け入れられることや人の役に立つという体験ができる場がボランティアであり、その体験が仕事に向かう第一歩となると考えています。

岩永：ボランティアに参加したあと、さーくるでのグループワークでの変化はありますか。

巽：毎回振り返りの中で、良かった点、うまくできなかった点をみんなで話し合うのですが、ボランティアをやっていなかった方もやってみたいと思うようです。グループワークの中でボランティアを理解することも大事だと思います。

岩永：実際について先日もグループワークでボランティアを希望する方がいましたね。最後に、就労準備支援事業の今後の展望や事業に対して期待することなどありましたら教えてください。

巽：就労準備支援事業を利用している方は自由に使えるお金がない方が多いので、なるべく金銭的な負担のない活動を考えていきたいと思っています。できれば、活動費や交通費などの参加者個人に対する援助があると良いと思います。

岩永：経済的な理由でさーくるに来られない方たちへはどのように対応しているのですか。

巽：自宅などへのアウトリーチを取り入れて、自宅やその近隣でプログラムを展開することも徐々に始めています。

岩永：住んでいる地域でプログラムを展開して、ボランティアや就労体験の機会も地域に用意されると地域の中でステップアップしていけますね。

巽：こちらから地域の方に就労準備支援事業の活動への協力をお願いしていくことが地域づくりにも繋がり、皆で支え合う社会になっていくと期待しています。

大谷：この事業が浸透してくることによって、だれも排除しないで、一人ひとりがその人らしく生きていける地域づくりにつながることを期待しています。社協がこの事業を実施しているのは、各地区社協があり、その地域の方たちの力を借りられる強みがあるからです。そこにもっと力を入れて、みなさんの近くで活動出来るようにしたい。就労準備支援事業を利用している方たちが一人ひとり自分にあった形で何か仕事に就いて自分らしく暮らしてほしいと思います。

岩永：今日は、どうもありがとうございました。

大谷・巽：ありがとうございました。



就労準備支援事業の
利用者さんの作品

家計表がリニューアル！ 改善後の家計との比較がより分かりやすくなりました。

こんにちは！家計相談支援員の柿沼です。

6月に、家計相談員向けの研修に参加してきました。

研修では、厚生労働省から提供されている『相談支援ツール』の家計表がリニューアルされた話がメインでした。新機能として、現状の家計表と、改善を想定した家計予定表をグラフで比較検討ができるようになりました。さらに、家計予定表を基にキャッシュフロー表が作成されるので、家計の将来的な見通しを確認することができます。

家計についてお悩みの方がいらっしゃいましたら、是非「保健と福祉の総合相談窓口」さーくるにご連絡ください。

研修報告

千葉県生活困窮者実務者ミーティング (ちこネット)



7月7日、千葉県弁護士会館（千葉市中央区）で千葉県生活困窮者自立支援実務者ミーティングが開催され、県内の生活困窮者の相談に携わる124名の参加がありました。

まず、厚生労働省のざきしんいちの野崎伸一氏より「新たな社会保障の仕組みへ」と題した基調講演があり、後半は、ひきこもりや外国人支援などの7つのテーマの分科会が開かれました。

基調講演では、少子高齢化や未婚率増加、雇用の不安定などから社会的孤立が深まり、一人の人が抱える課題が複合化していること、市町村や地域の様々な相談支援機関で広く受け止めていける体制を目指していくべきとのお話がありました。

さーくるでも、制度の狭間にあたり複合的な課題を抱える相談が増えています。改めて船橋市のさまざまな相談支援機関と、より密に連携を取り、一緒に考えながら地域を支えていきたいと思いました。

分科会に参加した感想

- ・外国人支援の分科会に参加しました。弁護士から、在留資格についての説明を聞き、支援を組み立てるうえで重要なポイントだと感じた。
- ・困難事例（児童虐待）の分科会では、虐待への対応方法を学び、関係機関のつながりの大切さを再認識した。